

地球の平均気温はどのくらいでしょう？

地球は大気層につつまれているおかげで現在の平均気温は約15℃に保たれています。

「温室効果ガス」とよばれる二酸化炭素(CO₂)などの気体が地球の保温効果に大変役立っています。

このCO₂の濃度は長い年月の間、大気と海と森林の間を循環しながらバランスを保ってきました。

ところが産業革命以降、大量の石油や石炭が燃料として使われたためこのバランスがくずれ、大気中のCO₂濃度がぐんぐん高くなり、急速なスピードで地球の温暖化が進んでいます。

温暖化により集中豪雨や洪水などの異常気象発生の危険性が高まるばかりでなく、農海産物の生産活動に多大の悪影響を及ぼす懸念が指摘されています。温暖化の進行を抑えるためにゴミを燃やす量を減らすことが必要になってきます。

糸島クリーンセンターに搬入されるゴミの量は前原市全体で平成18年度1年間に21,399tで一人あたりに換算すると**1日に853g**のゴミを出していることとなります。一方、ゴミの処分等に係る費用は年間で約15億1,000万円かかっています。一人あたり年間に**約22,000円**負担しているわけです。

ゴミ減量の効果は

1. 平成12年3月に稼働を始めた糸島クリーンセンターの寿命が延びます。
2. 処理の際、使用するコークス、石灰石、灯油の燃料コストが下がります。(10%減量で約1,000万円のコスト削減)
3. 処理されたゴミは灰(溶融飛灰)となり最終処分場で埋め立てられますが減量により最終処分場もより長く使えるようになります。
→財政面でプラス効果
4. 処理経費の削減になり住民負担が軽減されます。
5. 年間約27,000t(一市二町分)排出されているCO₂の排出量を減らすことが出来ます。

“分ければ資源、
混ぜればゴミ”



前原市では有価資源回収活動に対する奨励を行っており、平成18年に回収した有価資源量は2,433tで発生したゴミ量の約1割に当たります。

糸島クリーンセンターを管理する施設組合が搬入されるゴミの中の内容を分類調査した結果によると、**紙布類が60%**程含まれている事がわかっています。

まだまだ多くの資源ゴミが再利用されることなく焼却されているわけです。もったいないことです。

資源化によるゴミ減量運動は世界で行われています。

前原市においても以下の取り組みを実施しています。

1. 有価資源化活動団体(子ども会、婦人会、老人クラブ、マンション管理組合等)が古紙(新聞、雑誌、ダンボール)古布(着れなくなった服など)アルミ缶を集めて回収業者に引き渡す活動に対し補助金を出して応援しています。
※古紙類6円/kg 古布5円/kg アルミ3円/kg (平成19年度)
また古紙等の回収倉庫は各校区(南風を除く)の公民館に設置されています。
2. コンポスト(生ゴミ堆肥化容器)の購入に対し、その金額の半額補助(上限2,500円)を行っています。
3. トレー、牛乳パックの回収を市内48カ所に回収ボックスを設置(公共施設、郵便局等)し、拠点回収しています。
4. 広報まえばるの誌上や市民まつり・環境フェスティバル等で宣伝広報活動を行っています。
5. シルバー人材センターに業務を委託して、環境パトロール車で市内の環境監視と回収を行っています。
6. 前原市では平成20年より「生ゴミゼロ大作戦」を展開しゴミ減量を市民の皆さんのご理解とご協力を得ながら実施する計画です。詳細の説明会を各公民館で開催し周知徹底して行く予定です。是非参加して共に行動して行きましょう。

